

大人になってからの、暮らしとお金

シリーズでいちばん先の話です。今日、決めることは何もありません。



十数年先に効くことのいくつかは、いま知っているかどうかで変わります。
不安にさせるためではなく、あとで慌てないために置いています。

名前も手続きも市区町村でちがいます。ここに書けるのは、どこで聞けばいいかまでです。

この先のことで、引っかかっていること

あてはまるものにだけ印を。全部につける紙ではありません。右は、相談で聞いてみたいものに丸をつけてください。

- | | | | |
|---|--------------|---|--------------|
| ☐ この子が大人になったとき、家で見られる自信がない | 聞きたい・もう知っている | ☐ 障害年金というものがあるのは聞いたが、中身を知らない | 聞きたい・もう知っている |
| ☐ 自分たちが先に年をとることを、まだ二人で話していない | 聞きたい・もう知っている | ☐ いつ、誰が申し込むものなのかを知らない | 聞きたい・もう知っている |
| ☐ きょうだいに背負わせることになるのが、こわい | 聞きたい・もう知っている | ☐ あとで昔の受診の記録が要ると聞いたが、何を残せばいいかわからない | 聞きたい・もう知っている |
| ☐ 家以外に暮らす場所があると聞いたが、名前しか知らない | 聞きたい・もう知っている | ☐ お金の管理を、本人ができるようになるのか心配 | 聞きたい・もう知っている |
| ☐ どんなところなのか、見学できるのかを知らない | 聞きたい・もう知っている | ☐ きょうだいと、この先のお金の話をまだしていない | 聞きたい・もう知っている |
| ☐ 順番待ちがあるのか、いつから動くものなのかを知らない | 聞きたい・もう知っている | ☐ こういうことを相談できる人が、どこにいるのか知らない | 聞きたい・もう知っている |
| ☐ 本人が「家を出たい」と言い出したとき、どうすればいいかわからない | 聞きたい・もう知っている | ☐ まだ先のことだと思って、一度も調べたことがない | 聞きたい・もう知っている |

その先の暮らしには、こういう形があります

名前も手続きも、自治体でちがいます

「家で見る」か「施設」かの二択ではない グループホームは、数人で暮らす家です。1つの住まいで暮らすのは5人くらいのところが多いです。

昼は外に出て、夜そこへ帰る 仕事や通所に出て、夜の暮らしを支えてもらう形です。

20歳のとき、本人あてのお金の手続きがある 障害年金です。そのときそれまでの受診の記録が要ることがあります。

ひとりで決めなくていい 暮らしとお金の相談にのる相談支援専門員という人がいます。

どれも、見学して・決めて・手続きをして、と段階があります。だから、早めに知っておくと効きます。

この先、どこに聞くか（2つだけ）

① 暮らしのことは、市区町村の障害福祉の窓口聞く

「将来の住まいのことで相談したい」と伝えと、相談支援専門員という人につないでもらえます。見学できるかどうか、そこで聞けます。

② お金のことは、年金事務所か市区町村の年金の窓口聞く

20歳のときの手続きに、それまでの受診の記録が要ることがあります。いま通っている病院の名前と時期をメモに残しておくだけで足りることもあります。

この紙は検査でも診断でもありません。ご相談のときに「どこから話すか」を決めるための材料です。

このシリーズは、1枚ずつ増えていきます。

いま起きていること —— 朝の支度／食事／お風呂から寝るまで／おでかけ・買い物／園・学校／ときどき起きること

この先の見通し —— 療育手帳／特別支援学級・特別支援学校／進路と仕事／頼れる先の地図／大人になってからの暮らしとお金